

死生学

科目到達目標:人間の生老病死におけるさまざまな側面について、医療従事者を目指す者としてだけでなく、
今、ここに生きる一人の人間として、想像力と共感力をもって理解しようとする姿勢を身につけること。

科目責任者(所属):安藤 泰至(基礎看護学)

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1	10/5(水)	1	221	人間にとっての生と死	安藤 泰至	基礎看護学	生物学的な生死とは別の次元で、人間にとって「生とは何か」「死とは何か」という本質的な問いがあるということについて、歴史的・文化的観点を含めて理解する。	死生学とは何か、生物にとっての死、人間にとっての死、「死」という観念、「地と図」としての「死と生」
2	10/12(水)	1	基礎看護学 セミナー室 (117)	生と死への問い	安藤 泰至	基礎看護学		生老病死とライフサイクル、「死」の克服という文化的課題、多様な宗教的死生観、通過儀礼、一人称・二人称・三人称の死
3	10/19(水)	1	基礎看護学 セミナー室 (117)	医療化社会における生と死	安藤 泰至	基礎看護学	私たちの誕生や死が医療化されていく社会のなかで、伝統的な死生観や生と死をめぐる社会の風習の基盤になっていた私たちの生活感覚自体が変容しつつあるさまを理解し、その中で生と死がどのように問われるのかを考える	誕生と死の医療化、新しい「文化」としての医療、生と死をめぐる「問い」の隠蔽、生と死における人間の主体性
4	10/26(水)	1	基礎看護学 セミナー室 (117)	いのちの始まりをめぐる生命倫理と死生観	安藤 泰至	基礎看護学	いのちの始まりをめぐる生命倫理において、「ヒトはいつから人間になるのか」という問題を軸に議論が行われてきた欧米と、「いのちのつながり」の自覚とその回復を主眼にしたケアの文化をもつ日本の違いを理解する。	妊娠中絶論争、新しい生殖技術をめぐる論争、いのちの選別、胎児や胚の道徳的地位
5	11/2(水)	1	基礎看護学 セミナー室 (117)	水子供養という文化装置	安藤 泰至	基礎看護学		水子供養、妊娠・出産をめぐる日本の歴史、ブームの社会的背景、不安と罪責感、日本の伝統的宗教文化
6	11/9(水)	1	基礎看護学 セミナー室 (117)	喪失体験とグリーフケア	安藤 泰至	基礎看護学	人間にとって避けることができない「古い」「病い」「死」、「別れ」「喪失」といった体験の重要性を理解し、それが単なるマイナスの体験ではなく、精神的成長の糧となるにはどのような心構えやケア、サポートが必要なのかを考える。	喪失体験、グリーフケア、ターミナルケアとグリーフケアの連続性、何がグリーフケアになるのか、病い・障害とともに生きる
7	11/16(水)	1	基礎看護学 セミナー室 (117)	「古い」をめぐる	安藤 泰至	基礎看護学		古い、イニシエーション、老人(高齢者)問題と老いの神秘、老いの排除、現代社会における「古い」の位相
8	11/30(水)	1	基礎看護学 セミナー室 (117)	生と死の教育	安藤 泰至	基礎看護学	私たちが人間の「いのち」について考え続けていくためのいくつかのヒントを各自が得る。	デス・エデュケーション、いのちの教育、死生学と生命倫理、いのちの尊厳、新しい死生の文化

教育グランドデザインとの関連: 1、4、6、7

学位授与の方針との関連: 2、3、4

教科書: 使用しない。講義は、毎回配布するプリントにしたがって進める。

参考書: 最後の講義時に参考文献一覧表を配布する

評価 レポート 70% (全講義終了後に提出)
出席 30% (各回の感想や簡単な課題を含む)